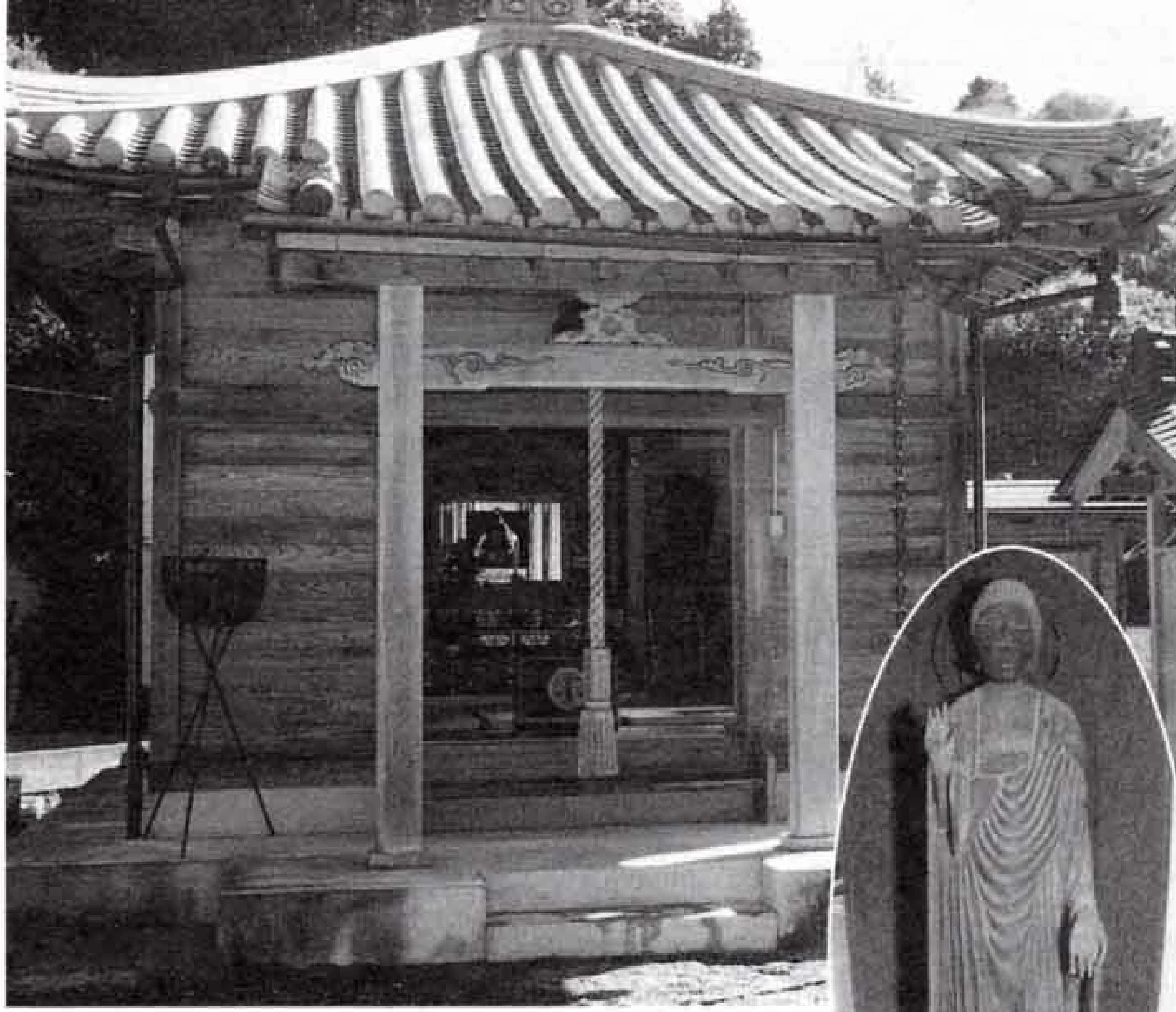


富士の民話 あれこれ

増川の

黒仏さん

増川三丁目の圓照寺に「黒仏さん」と呼ばれる仏像があります。これは、高さが九十センチメートルくらいで、ヒノキの一刀彫りでつくられ、お寺の初代ご本尊でした。
今回は、この「黒仏さん」に伝わる話を紹介します。



▲圓照寺の地蔵堂



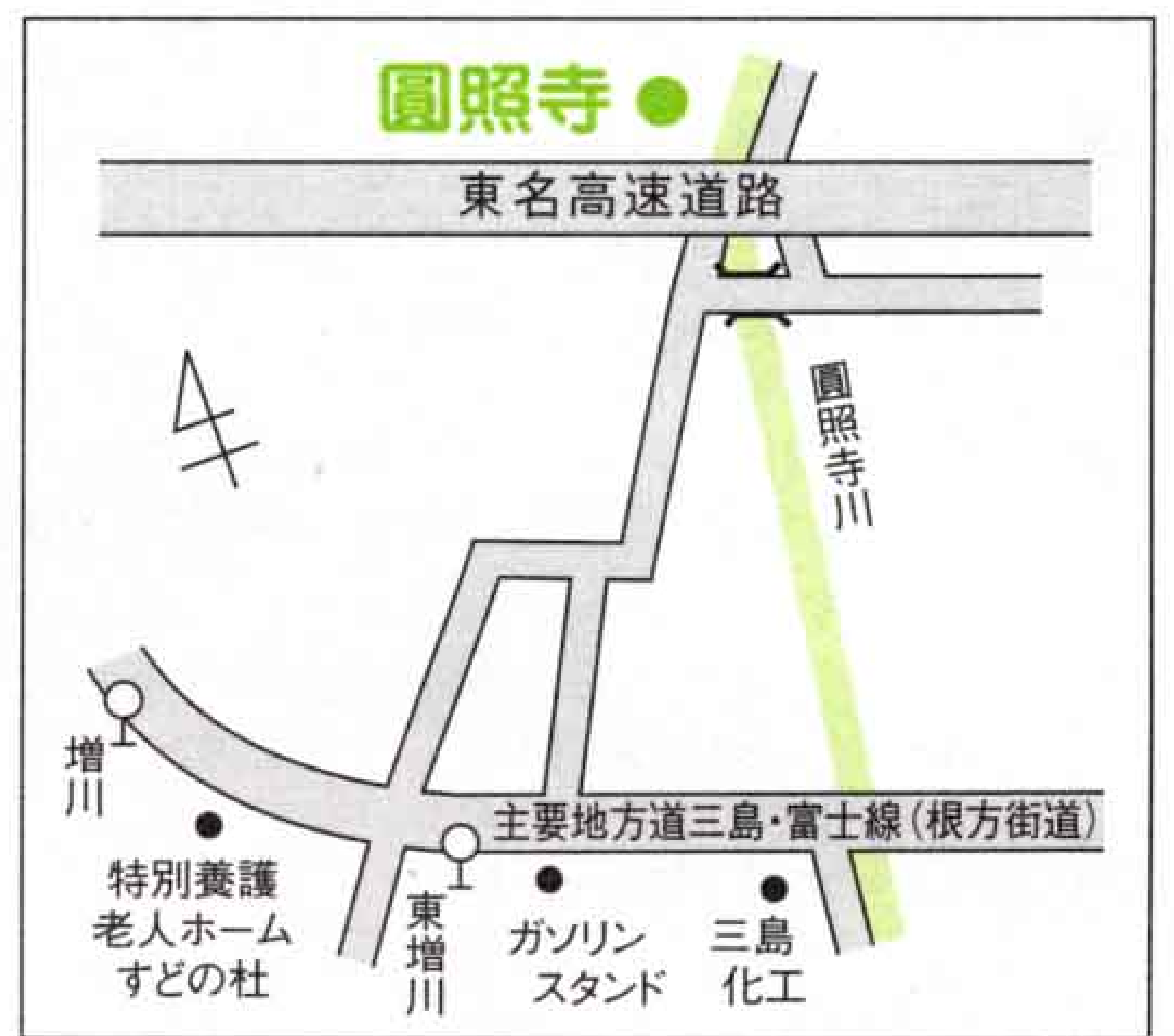
▶黒仏さん

昔、増川・江尾の一带には浮島沼が広がり、根方街道は北の愛鷹山ろくの山すそを周るようになりました。当時、根方街道は重要な道で、旅人も多く往来していました。

いつのころからか、馬に乗った旅人が圓照寺の前を通るとき、寺のご本尊の方を向いて礼をしないと、必ず落馬すると言われるようになりました。

馬に乗った旅人は、必ず礼をして通りましたが、ある日、「そんなばかなことがあるものか」という旅人が礼をせずに通りました。すると、やはり落馬してしまいました。

なぜ落馬するのか理由がわかりませんでした。あるとき、住職が道路の方を向いていたご本尊の仏像を、反対の北向きにしてみました。すると、その日から落馬する旅人がなくなったということです。



黒仏さんは、その名のとおり真っ黒な色をしています。圓照寺の初代ご本尊として祭られていたのですが、時代や作者など詳しいことはわかっていません。彫りが密であるという作風から、室町時代のものではないかと言われています。また、この仏像は釈迦如来像ですが、圓照寺は浄土宗で本来阿彌陀如来像を祭るといふことから、この寺の創建（寛永十年・一六三三年）以前に伝わってきたものと言われています。

現在黒仏さんは、地蔵堂の中に祭られていて西側を向いています。毎年八月二十六日に行われる圓照寺岩船地蔵尊大祭と大みそかの日に、地蔵堂を開いて皆さんにお披露目しています。

※元禄元年（一六八八年）作の石仏。沼地であったこの地域で、船の安全を守り、水に対する厄よけをしてくれる地蔵さんとして知られています。



圓照寺の住職
日比 昭生さん（江尾）

こちら編集室

私の母は、昔で言う職業婦人だった。職場でも家庭でも並々ならぬ苦勞をしてきたのを私はずっと見てきた。しかも53歳のとき病気で退職。「女性も働いた方がいい」とよく言う母の考えが理解できず、専業主婦が理想だった私。が、気づけば結婚もして30歳を超えた今も勤めている。

そして、このたび出産。仕事は続けていく。ここまできてようやく母の考えが肌で感じられるようになった。幸い、私には積極的に子育てしてくれるであろう配偶者もいる。充実した人生の形は人それぞれ。大切なのは、人として人を思いやることでは。家庭で、社会で…。

人口 239,060人（前月比+201）
男 118,943人（+76）
女 120,117人（+125）
世帯 79,356世帯（+105）2月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

